

# Is limited resection appropriate for radiologically "solid" tumors in small lung cancers?

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2014-12-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 服部, 有俊 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001779">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001779</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2328 号

Is limited resection appropriate for radiologically "solid" tumors in small lung cancers?

(放射線学的に”solid”を呈する小型肺癌に対する縮小切除は妥当か?)

服部 有俊 (はっとり ありとし)

博士 (医学)

#### 論文内容の要旨

小型肺癌に対する縮小切除が普及している。胸部外科学会の集計でも肺区域切除術は肺切除の 7.8%程度にのぼる。一方、これまで胸部 CT ですりガラス影(ground glass opacity: GGO)を呈する肺癌に対する縮小切除は多く論じられてきたが、胸部 CT における“Solid tumor”における議論は少ない。

そこで、順天堂大学で 2008 年 1 月から 2010 年 12 月までに手術を施行した c-stageIA 非小細胞肺癌 680 例のうち、胸部薄切 CT 上 “solid” を呈する肺癌 227 例を対象とした。“Solid” の定義は充実濃度が腫瘍最大径の 50%以上を呈する肺癌とした。以下の術前因子と術後のリンパ節転移との相関を検討した: gender、年齢、pack-year smoking、胸部薄切 CT 上の腫瘍最大径、充実濃度の最大径、GGO status (pure solid vs others)、air bronchogram の存在、術前 carcinoembryonic antigen (CEA)値、主病巣の maximum standardized uptake value (SUVmax)値。二因子の相関を Fisher’s exact test、多変量解析に Logistic regression analysis を使用した。P<0.05 を有意水準とした。

結果は、男性 128 例、女性 99 例で平均年齢 66.0 歳、c-T1a: 131 例(57.7%)、c-T1b: 96 例(43.3%)、pure solid 群: 158 例(69.7%)であった。Pure solid 群の 26.6%(42 例)、part solid 群の 5.8%(4 例)にリンパ節転移を認めた。多変量解析では c-T1a、腫瘍内 air bronchogram、CEA、SUV 値が p-N0 の独立した予測因子であった。更に c-T1a において pure solid だけで同様の検討を行うと多変量解析の結果、CEA $\leq$ 5、SUV $\leq$ 5 が残った。Pure solid で CEA、SUV 高値の集団は 11 例あり、うちリンパ節転移を 3 例(27.3%)と極めて高率に認めた。

今回の検討から、胸部 CT 上で Pure solid を呈する肺癌は c-T1a であっても高率にリンパ節転移を認め、中でも CEA>5、SUV>5 の症例においては 26%にリンパ節転移を認めるのであるから現時点では積極的に practice としての縮小切除は行うべきでなく、JCOG0802 の結果を待つべきである。